

シアトル別院時報

32巻2月号

2013年度教化標語
眞実明に帰命せよ



生死を超える

新井俊一師



「なぜ仏典を読むか」よりもっと基本的な問題は、「なぜ仏教を学ぶのか」ということでありましょう。仏教を学んでもお金が儲かるわけでもなく、あまり面白くもおかしくありません。かえって、聞きたくない話まで聞かされる時があります。その上、仏とか、本願とか、五劫の思惟とか、全く形のない、雲をつかむような話が頻繁に出てきます。

しかしもし形のあるものしか存在しないとすれば、私たちは生まれてから死ぬまで、全く生物的な欲求を満たすだけに生きて、死ねば無に帰すだけというような命を生きることになります。それで良いという人は、宗教は必要がないのですが、多くの人は、自分の命に何らかの尊さと永遠性を認めようとします。つまり私たちは形のある世界を包含するもっと大きな形のない世界、言いかえると、有限の世界を包み込む無限の世界を見ようとし、そこへ生まれることを願望します。「自分は宗教を持っていない」という人でも、そういう願望を心の底に持っている人は多いでしょう。

仏教は、「私たちの命は悠久の昔から生まれ変わり死に変わりしてきた」という前提の上に立っています。もちろんこの世の命が終われば、永く未来に渡って、この状態が続くことになります。この状態を生死（しょうじ）とか、流転（るてん）とか、輪廻（りんね）とか呼んでいます。これは仏教興起以前のインドにあった考え方で、仏教はそれを引き継いだのです。この思想が仏教だと思っている人がいますが、それは違います。生死を超えた世界に生まれるのが仏教の目的です。

この生死・輪廻という前提を客観的に証明することはできません。私はというと、敬愛するお釈迦様と親鸞聖人がそうおっしゃるから、私もそれを信じるだけです。しかし信じてみれば、それが眞実であることが分かってきます。このようなことを言うと、①お釈迦様や親鸞聖人が眞実だ

2月の予定

- 3日 10時 スカウト・サンデー法要
10時45分 日本語プログラム
- 10日 10時 涅槃会法要・ペット法要
10時45分 日本語プログラム
11時45分 菜食ポット・ラック
- 15-17日 西北部仏教徒大会
ダブルツリー・サウスセンター
- 17日 別院での法要なし
- 18日 事務所休み（プレジデントデー）
- 24日 10時 家族法要
10時45分 日本語プログラム
- 7日 1時半 日系マナー法要
- 21日 1時半 日系マナー法要
- 26日 10時半 敬老ホーム法要

と言うことを信じる、②信じてみれば、お二人の言葉が真実であることが分かる、という風に話しが堂々めぐりをしている、と思われるかも知れません。しかし①で言う真実はお二人からいただいた情報としての真実ですが、②の真実は自分の前に顕わになって疑う余地のなくなった真実です。

これに関して古来仏教では「六道輪廻」という言葉を使います。六道とは私たちが生まれ変わり死に変わりする迷いの世界で六つの層があります。下から言うと、地獄・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人道・天道の六つです。これらに関してはまた詳しくお話ししますが、仏様の智慧の光に照らされて、私たちが久遠の昔からこれら六つの世界を迷い迷ってきたのだ、ということが分かった時、同時に、仏様は私たちを見捨てられないで、私たちの迷いの時間と同じくらい長く、私たちを救おうとしてこられたということが明らかになるのです。

先生の略歴：相愛大学名誉教授、文学博士（ハワイ大学）、浄土真宗本願寺派教師。

有無の二見

沼田智秀著 「仏陀との出会い百八つのおしえ」より

浄土真宗をお開きくださった親鸞さまは、「正信念仏偈」の中で、

南天竺（南印度）に龍樹大士世に出でて、ことごとくよく有無の見を摧破せんと讃えられています。

有の見と無の見を有無の二見というのですが、有の見とは、あらゆる事物は、永遠に変わることも、消滅することもなく不変常住のものであるという見解です。

それに対して無の見とは、あらゆる事物は一時的に存在するだけで、時間の経過と共に全く消滅して、文字通り無に帰すという見解です。

本当は、あらゆる事物は、その時その場の因と縁によって存在するもので、不変常住なものもありませんし、だからといって無に帰すというものではありません。

ですから、有の見も無の見も誤った見解であり、仏教では邪見というのです。

そのことを明らかに教えてくださったのが八宗の祖師と讃えられる龍樹菩薩なのです。

春のファンドレイズについて

3月23日(土)

例年のバザーに変わり今年はディナーを催します。日時は3月23日(土)4時—7時半。

チケットが送られます。ご自身で使われるチケット以外にご家族、ご友人に買って頂きたく願っています。追加のチケットも買えます。お寺で育った方々がたくさんおられます。ご法要や他の催しに来られなくなっている方にもぜひ出席して頂きたく思います。ディナーは一人分15ドルです。このファンドレイズの為にご家族、ご友人と一緒に参加して下さい。詳細はウェブサイト、郵送物、お寺内のポスターをご覧ください。



キャンプファイアー

恒例のキャンディーセールは1月25日から2月18日まであります。皆様のご協力に感謝します。



音楽ノート

頭本ドーナと鹿島かなこが素晴らしい太鼓とお琴を報恩講で演奏されました。佐々木ドーナの仏歌

「Path of Nembutsu」をクワイアーがかなこの琴の演奏で歌いました。今年は別院クワイアーとボーディー・アンサンブルでタコマ寺からの曲をもっと紹介してゆきます。

2012年別院スカラシップ

ハイスクールのシニア用、辻原スカラシップの申し込み用紙が用意されました。

大学生用、下紺まさる・みつますカラシップは3人まで。ナースプラクティショナー、メディカルドクター、レジスターナースの各卒業予定者。締め切りは4月8日2013年2時半に事務所まで。詳細は事務所を通して賀来シズまで。

会員部より

別院維持会会員の年度会費は70才以上は\$250(\$500ご夫妻)、70才以下は\$300(\$600ご夫妻)です。これは別院の維持に対しての最低額になります。分割でも払えます、事務所までお申し出下さい。ありがとうございます。

2013年法事予定

故人の面影をしのび、感謝すると共に、故人の命日を縁として、家族が仏法に触れる機会です。

亡くなった年

2012年	一周忌	1年目	1997年	十七回忌	16年目
2011年	三周忌	2年目	1989年	二十五回忌	24年目
2007年	七回忌	6年目	1981年	三十三回忌	32年目
2001年	十三回忌	12年目	1964年	五十回忌	49年目

* 法事のご要望は別院事務所までご連絡下さい。206-329-0800.

婦人会便り

会長のメッセージ

馬場ジャネット

新年宴会：今年度は婦人会会員は常例の“早朝よりお弁当調製”の役目より解放され、初めてゆっくり宴会を楽しむ事が出来ました。多くの会員は、お弁当調製に必要な労力に応える事が難事となり、この推移に感謝します。皆様が美味しいお弁当を楽しまれ、お年始のご挨拶を交わされるご縁を得た事と期待致します。

オライオン・センター：去る1月18日、約45-50人のホームレス青少年達の為に、栄養のバランスの取れた夕食を柴田デニス、馬場メリッサと馬場ブライアンジュニアの援助を得て、永井サンニー、出口ジーン、バートみち、真野アイリーン、志萱メアリー、新宅フランの方々が準備をし、接待致しました。

西北部仏教徒大会：「私はどこに？」の題で、来る2月15-17日にタクイラで開かれる第66回仏教徒大会に30名以上の婦人会会員が出席されます。参加者はご講師方はプナ本願寺ミッションの藤本デビッド師とサンノゼ、加州の赤星ケンジ師です。のご法話を聴聞出来ます。又、沢山の数あるヨークショップと会合に参加します。加藤ジョイスが賀久静江の援助の下に会員の登録をしました。

報恩講法要：婦人会料理部が他の部員の援助を得て、広島伝統の報恩講精進料理“にごめ”とおぜんざいを、法要の後、別院会員の方々に接待されました。寒い日でしたので、とても喜ばれました。

来るクラス：1月に清水ダーリーンに依りアイリスカード作製のクラスが持たれました。来る2月27日には川原律子が日本料理（白和え、おから、そして、しらすご飯）のクラスを持たれます。人数の許す限り、どなたも歓迎です。



新会員募集：奉仕を中心とする私達団体は、新会員を募っております。来る5月5日に新入会員入会式並びに午餐会が予定されております。興味有る方は高島清子、又は事務所の中野ジョーンに連絡して下さい。新会員を歓迎いたします！

最後に、一昨年、別院、サンガ、そして社会奉仕に関わって下さいました会員の皆様に、有り難く感謝申し上げます。今年も、どうぞ宜しくお願い致します。
合掌

婦人会寄附：英語欄を参照下さい。

2月行事予定

3日(日)	婦人会理事会、午前11時45分
15-17日	西北部仏教徒大会(白河仏教会主催)
24日(日)	婦人会役員会、午前11時45分
27日(水)	日本料理クラス、午前9時半

通信書記(日) 新保エツ提出



報恩講のにごめ作り、藷子、みち、政子、律子、フローレンス、和美、ナイナ(園枝とジャネット外)



桑原先生と別院ミニスターとアシスタント

食事のことば

食前のことば

(合掌)

- 多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。

(同音)

深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

食後のことば

(合掌)

- 尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。

(同音)

おかげで、ごちそうさまでした。



